

SFDS(Sunami Flowchart of Dementia Support)



【方法】

生活歴情報を基に患者を理解するとともに、具体的な介入の方法をフローチャート化して理解を深め、実施した。

- ① 患者が声を掛けやすいよう視野を広くもち、多くの患者と視線を合わせる。
- ② 患者が声を掛けやすいよう、ゆっくり行動する。
- ③ 表情や身振り手振りを多めに、肩や膝等に触れたりしながらコミュニケーションをとる。
- ④ 手足が冷えている高齢者が多く、ホットパックを用いたり冷えた部位を温めるようにマッサージしたりすることでリラックスを得やすい。
- ⑤ 離床を促す患者の場合、患者の好む音楽や雑誌等を用意し、興味・関心を刺激する。
- ⑥ 言語理解力の低下がある場合、説明もしくは指示を受ける事に抵抗がある患者もいる。
その場合、集団内で他患の行動や様子を見て理解を得られる場合がある。
- ⑦ 遠慮がち・消極的な患者の場合は少人数で集まってもらい、交流を促しながら実施する。
- ⑧ 高齢や痛み等を理由に“訓練”を拒否しがちな患者の場合、ゲーム性を高めた活動を用いる。

【方法】

- ⑨ “徘徊”がみられる患者の場合、「今、お時間ありますか？」等と患者の意向を尊重するような声掛けをする事で応じてくれる事がある。
- ⑩ “徘徊”や、落ち着きがない患者の場合、円形に座席を設けた集団レクリエーションに案内すると、周囲の他患に対する配慮から席を外すことなく過ごせる場合がある。
- ⑪ 学歴や社会歴が高かった患者に訓練を実施する場合、個別対応にて実施し、毅然とした態度で適切な用語を用いて説明し、専門性・治療効果等を伝える。
- ⑫ 現存する身体能力が高めの患者の場合、当該患者よりも身体能力の低い患者とともに実施すると、満足感を得やすい。他患にとっては手本となるよう介入する。
- ⑬ 「皆様お揃いです」や「お席の用意が調っています」等の声掛けで案内すると応じる場合がある。